

平成28年度 同好会事業報告

理 科 同 好 会 世話係名 花形 敏郎 会長名 北澤 佳一

月 日	実 施 し た 事 業 内 容	参加人員
8 月 1 日	夏期講習会（上級CST養成プログラム）	10人
8 月 2 日	上級CSTによるサイエンス・ミーティング	7 人
12月20日	実験講習会（火山の噴火と液状化現象のモデル）	12人

理科同好会は、5月2日（月）に会員20名で発足しました。

今年度の夏期講習会も、昨年度と同じく、上級コア・サイエンス・ティーチャー養成プログラムと連携して開催することができました。

8月1日（月）に、信州大学教育学部理科教育グループの伊藤冬樹先生を講師に迎え、「ものの溶け方・水溶液の性質」をテーマに講義を行っていただきました。学習指導要領に沿った内容の検討から、粒子を柱とした小中高で学ぶ系統性を再確認し、発達段階における粒子概念の獲得方法を学びました。また、モル濃度の計算を久しぶりにやってみて、苦勞した学生時代を思い出しました。実験では、炭酸水をつくるソーダサイフォンや紫イモ粉を使った指示薬など、子どもたちに見せたいアイディアがたくさんありました。いずれも今後にかせるヒントをたくさんいただいた講義でありました。

8月2日（火）は、上級コア・サイエンス・ティーチャーである、長野市立南部小学校の林康成先生を講師に迎え、「理科における観察の理論負荷性～心理学による理科指導への提言～」、「小学校4年、中学校2年で使える上下の筋肉が連動して動く腕の筋肉モデルの製作」をテーマとして、講義と実習を行っていただきました。講義から、自分達が見ているように子どもたちは見ていないことを知り、顕微鏡などの観察では、子どもたちに観察の視点を与える必要性を感じました。また、筋肉モデルの製作では、わかりやすい筋肉モデルの作り方を教えていただきました。今後は、生徒数分の筋肉モデルを製作して、個別に操作できるようにしたいと思います。

上級コア・サイエンス・ティーチャー養成プログラムやサイエンス・ミーティングで学んだことをいかして、これからも理科の楽しさや自然の奥深さを子どもたちに伝えて

いきたいと思います。参加していただいた方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(会長 北澤佳一)